

統計利用の処方箋

なぜ統計が重要なのか？

統計の役割は何か？

いっしょに考えてみましょう。



政府統計

令和 年 月 日()

島根県政策企画局統計調査課



目次



I. なぜ、統計が必要か～統計の見方

1. 統計とは
2. なぜ統計を作るのか
3. 統計はどのように利用されるか

【参考】最近の統計調査に係る問題

II. 統計の使い方

1. 調査結果を眺めよう
2. 調査結果を表現しよう

【参考】統計データ分析にかかるコンペ

I . なぜ、統計が必要か ～統計の見方

統計の役割について、
いろいろな統計を見ながら
考えてみましょう

1. 統計とは

「一定の条件で定められた集団について調べた結果を、集計・加工して得られた数値」
(「統計実務基礎知識」より)

★ 一定の条件

- ・時間：統計の対象となる集まりが存在する「時」
(例) 令和5年度、4月1日現在
- ・空間：地域範囲を示す場所
(例) 全国、島根県
- ・標識：集まりを構成するそれぞれが持つ特性
(例) 年齢、性別、職業、産業

統計の役割

- 集団の特徴を客観的、定量的な情報として表現できる
- 集団の時間的変化を捉えたり、地域間比較を行うことができる
- 集団の特徴や物事の相互の関連性を明らかにできる

国の統計の目的

- 国民自身が自分の国の状態を正しく知るための役割
- 国や地方の行政の運営を公平・公正に行う基準を与えるための役割
- 国際社会の中で、日本の置かれた状況を正しく理解するための役割

2. なぜ統計を作るのか？

社会を「見える化」するために欠かせない手段

① 「今」をとらえる

→ その「集団」は、今、どんな状況なのか？

令和2年10月1日現在、島根県の人口は671,126人

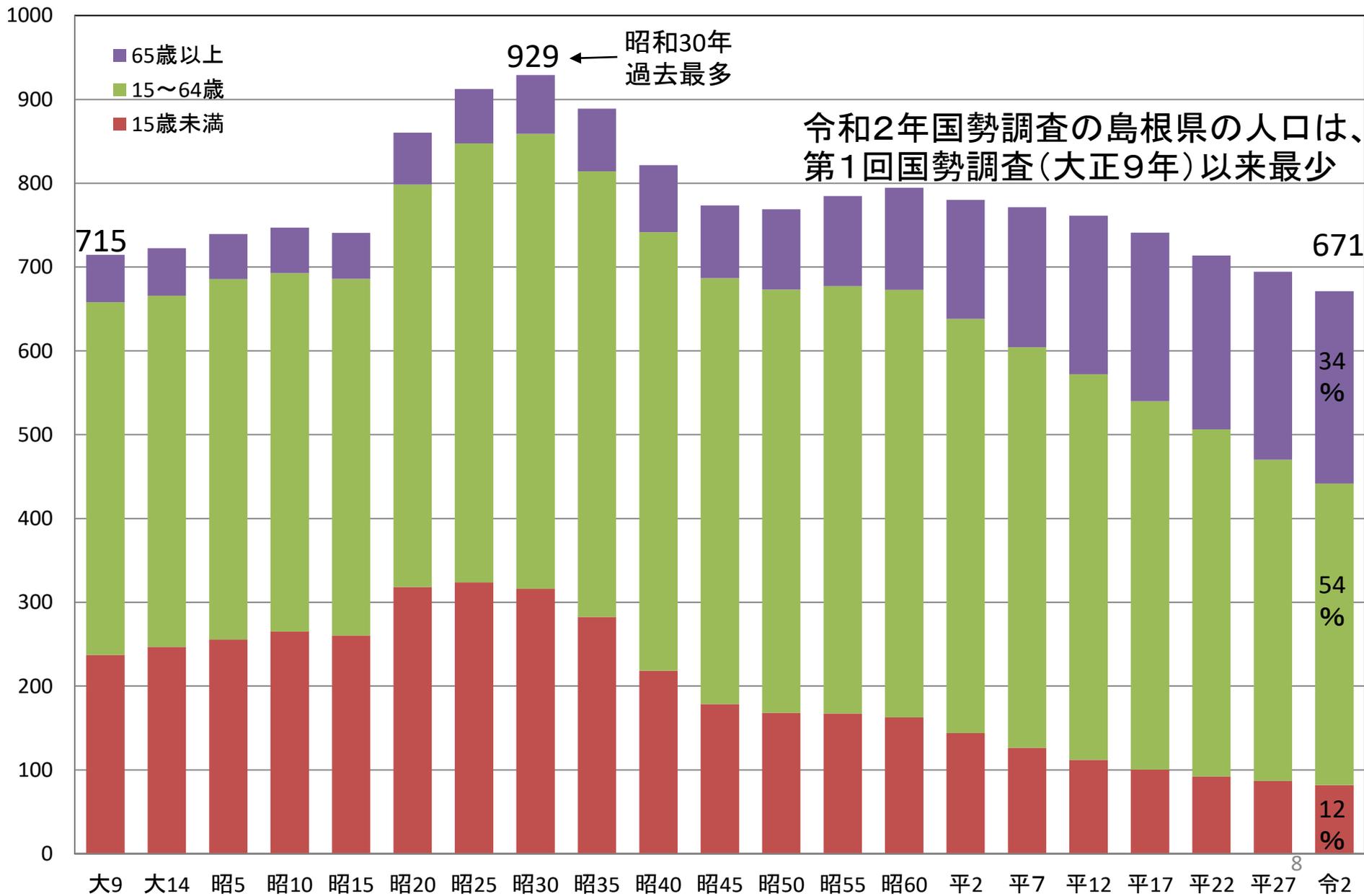
② 「過去」と比べる

→ 過去と比べてどう評価するか

- ・問題になったときだけ調べても真実は見えない
- ・普段からデータを集める必要がある

(1) 国勢調査による島根県人口の推移

(千人)



③ 「他の地域」と比べる

他と比べてどう評価するか

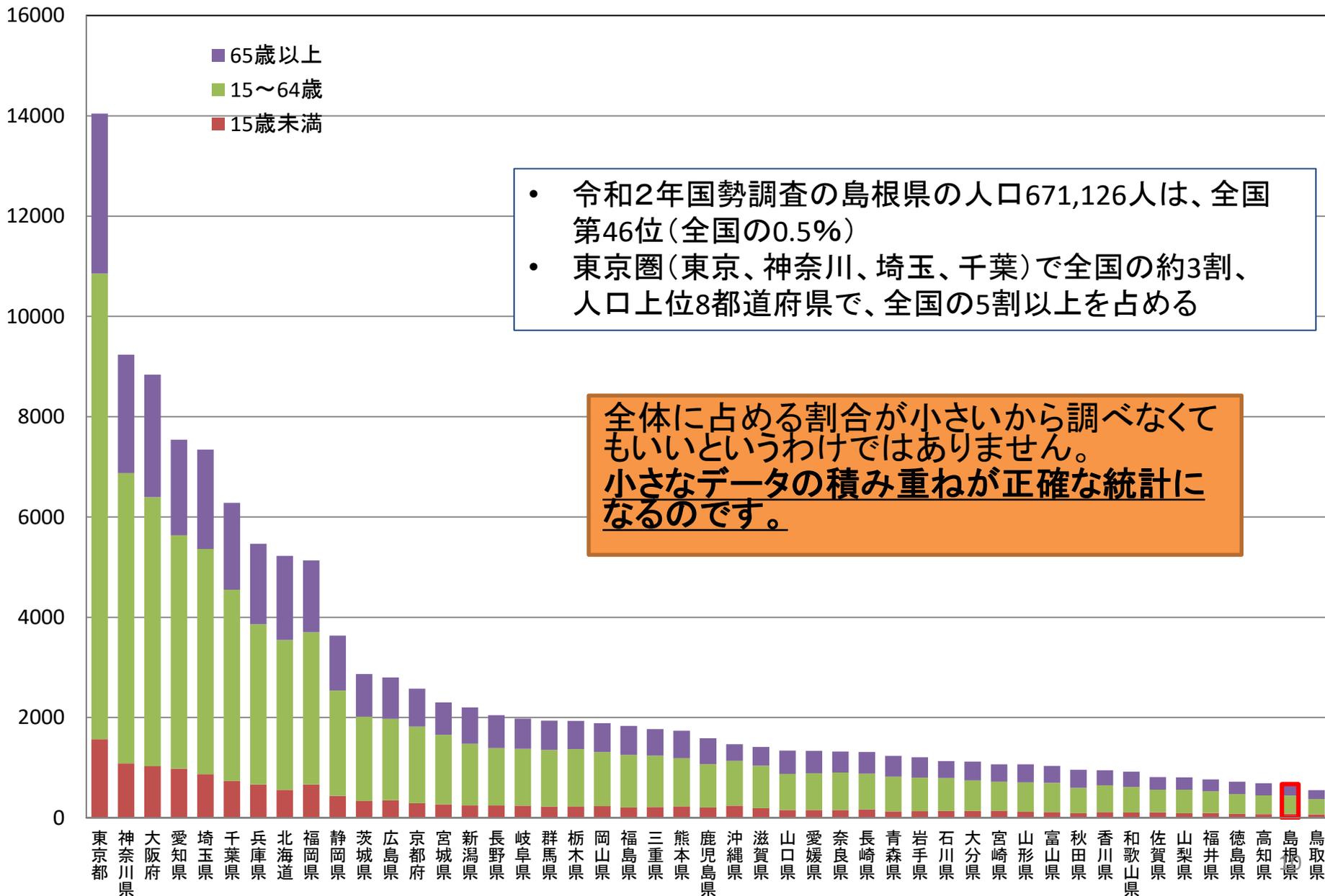
④ 「将来」を予測する

調査結果をもとに将来を推計するとともに、
対処するための検討材料とする

(2) 各都道府県別の人口

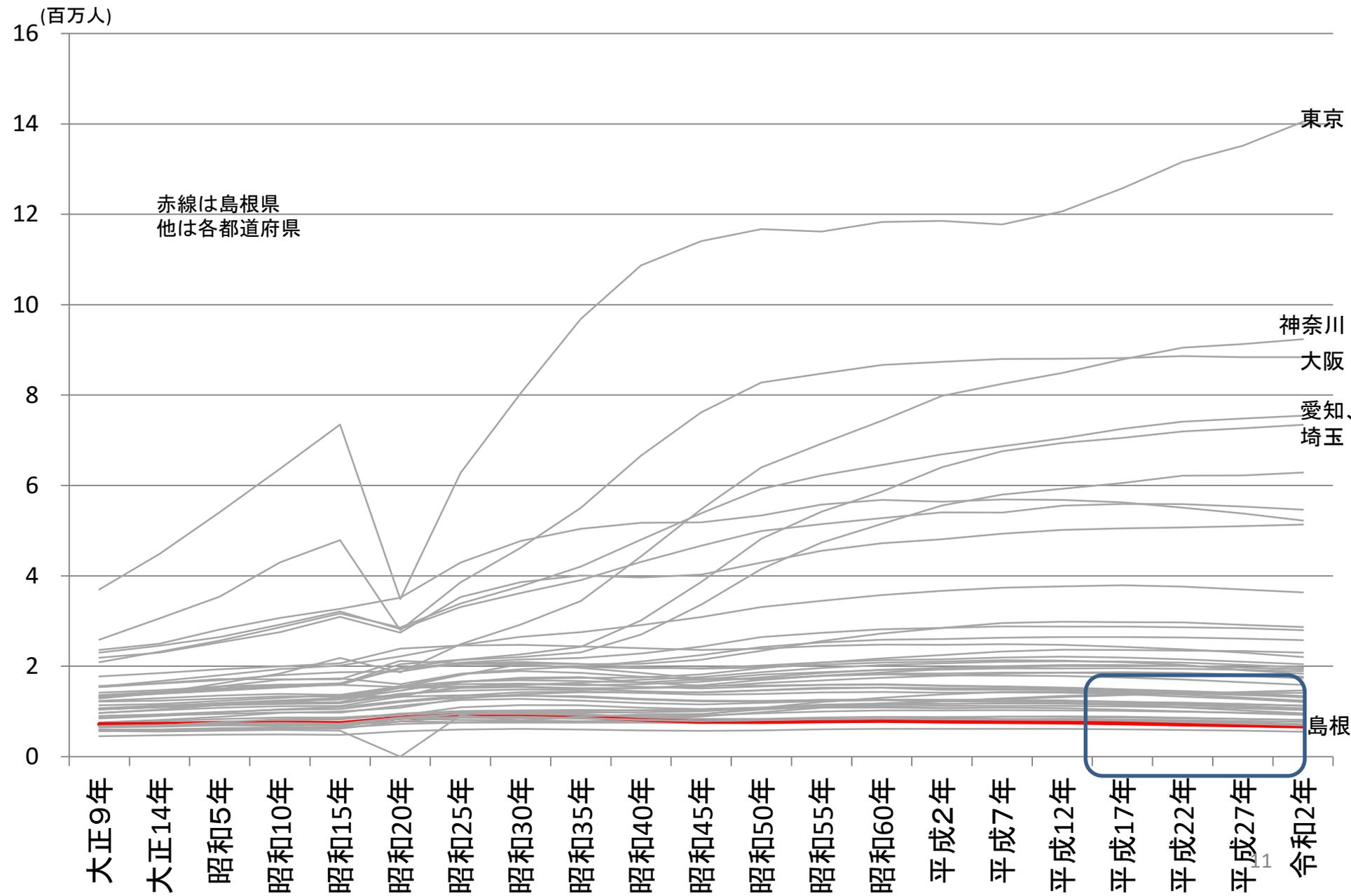
資料: 令和2年国勢調査

(千人)



(3) 各都道府県の総人口の推移

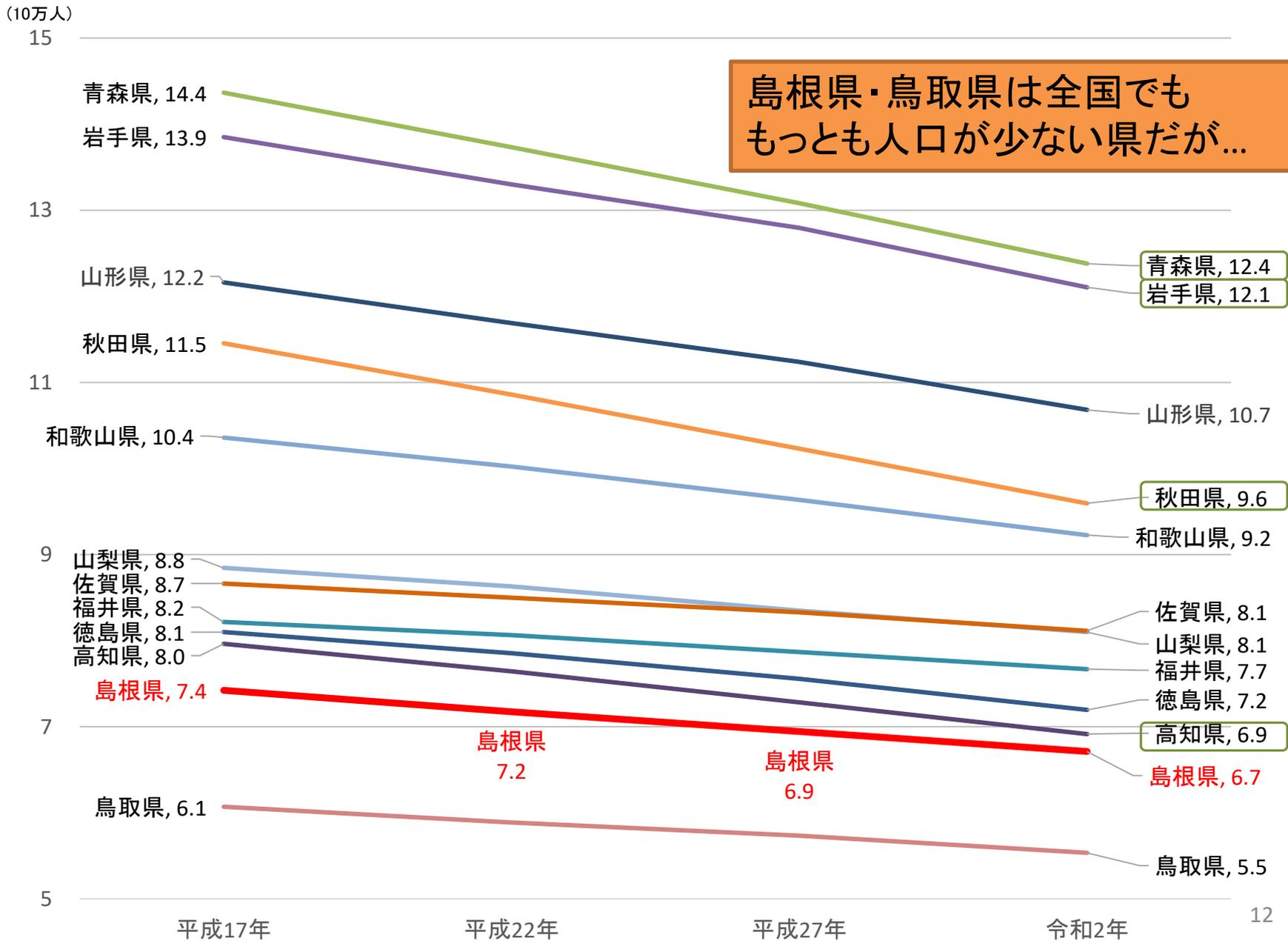
資料: 国勢調査



(4) 総人口の推移

(令和2年国勢調査において人口が少ない8県及び人口減少率が高い青森県、岩手県、秋田県、山形県)

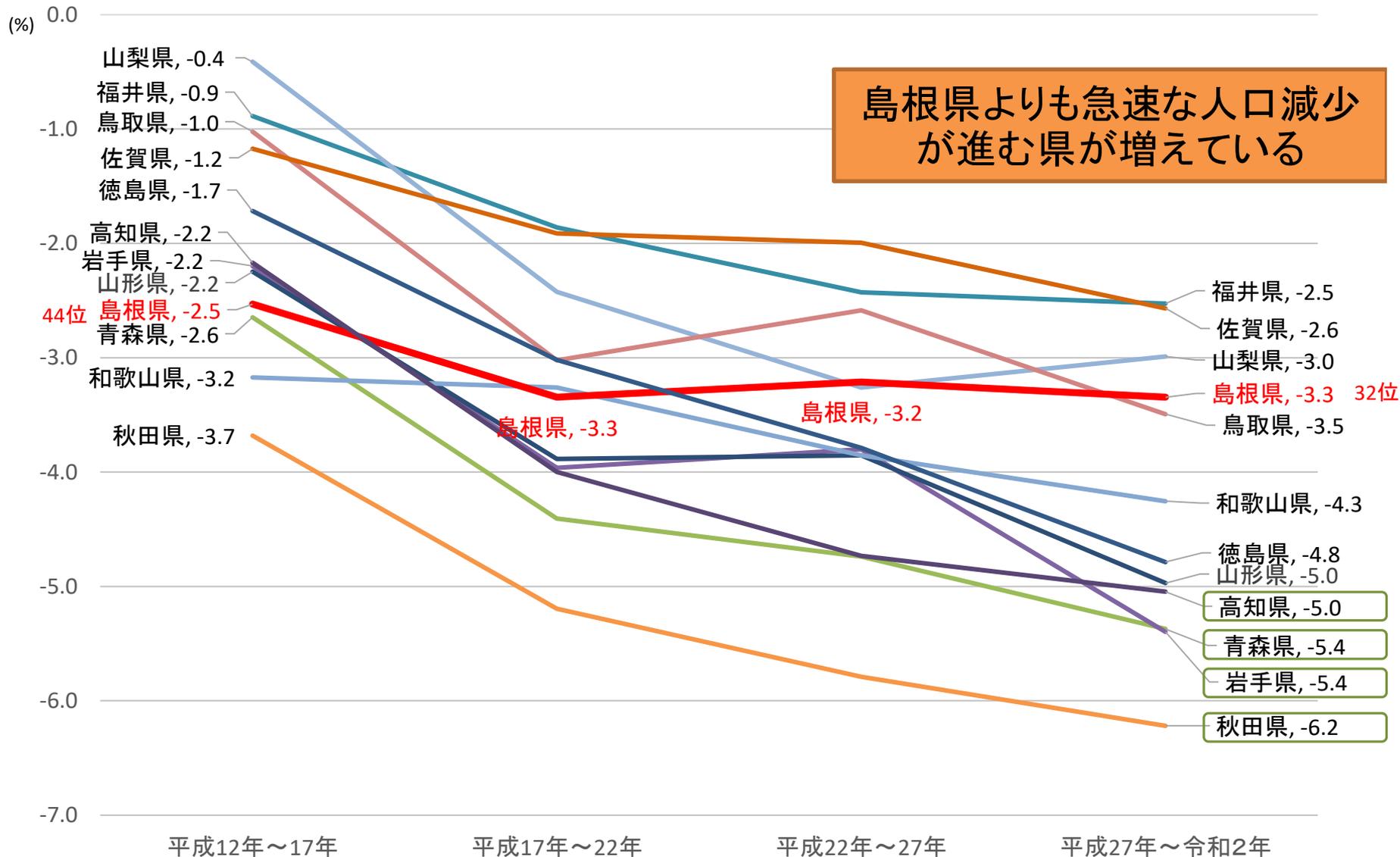
資料: 国勢調査



(5) 人口減少率の推移

(令和2年国勢調査において人口が少ない8県及び人口減少率の高い青森県、岩手県、秋田県、山形県)

資料: 国勢調査

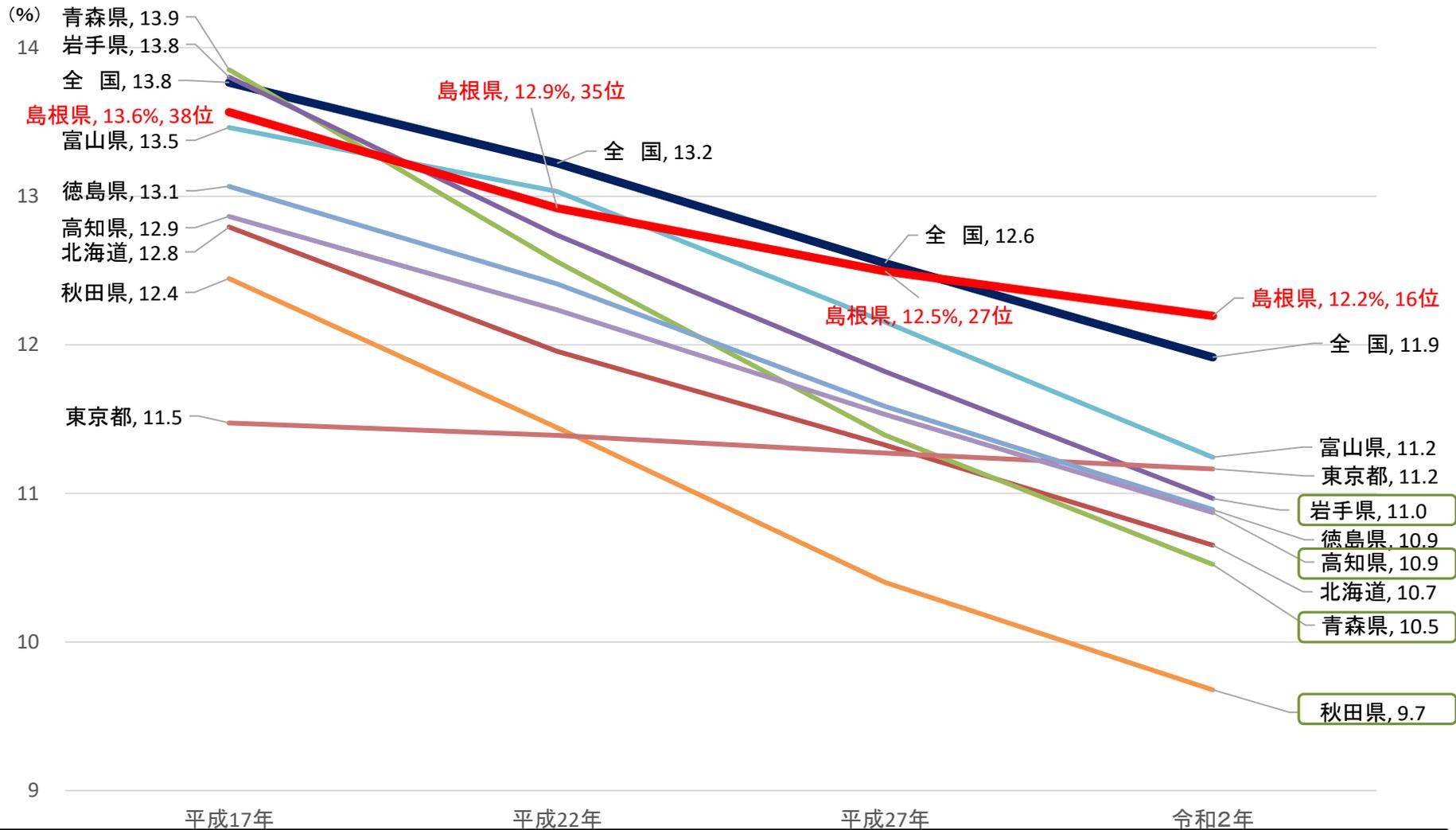


人口減少率が高い秋田県、岩手県、青森県、高知県の4県は、15歳未満人口割合の低さも、65歳以上人口割合の高さも全国上位

(6) 15歳未満人口割合の推移

(令和2年国勢調査において、同割合が低い8県及び島根県)

資料: 国勢調査

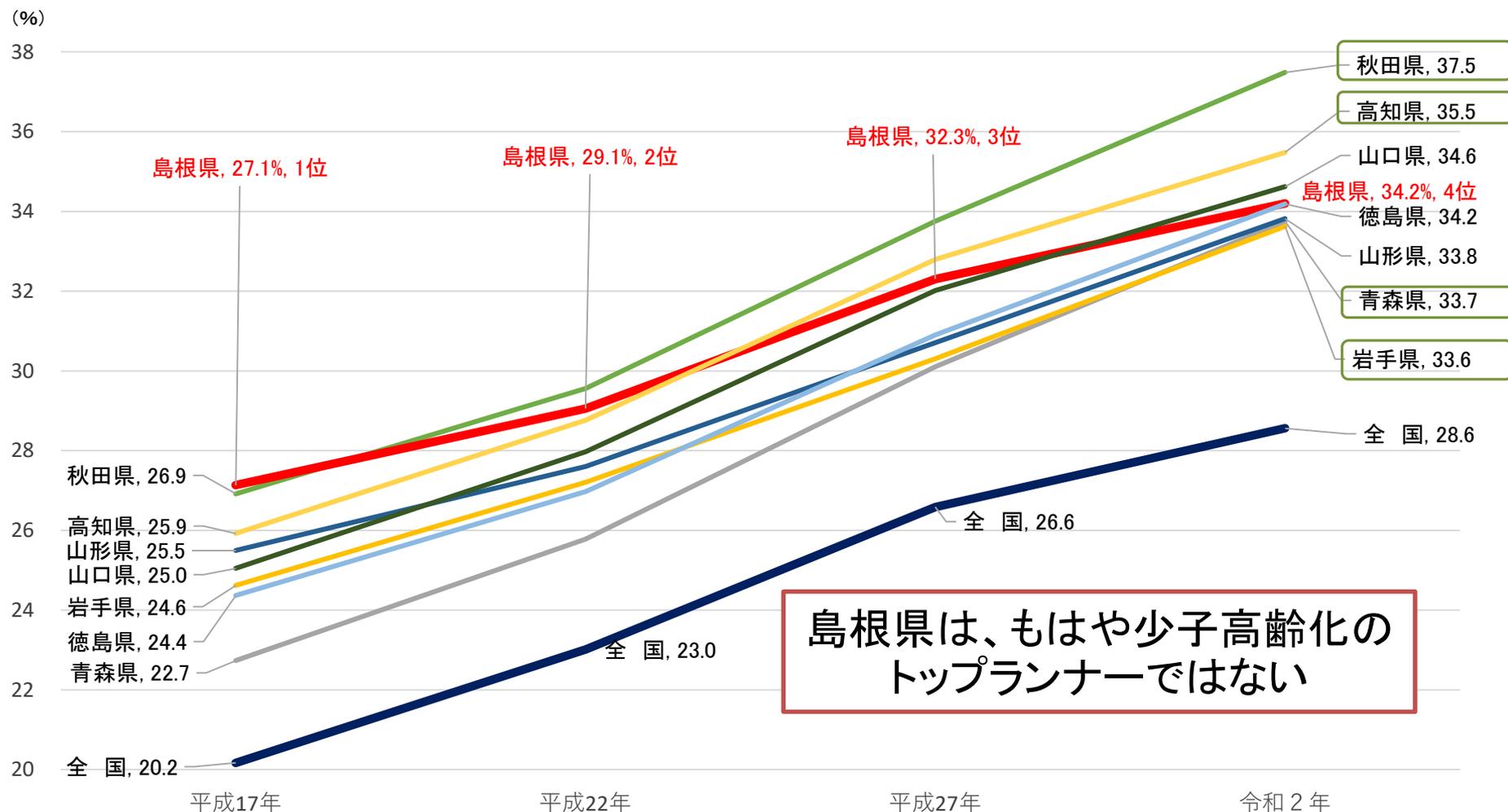


- 島根県は、H17の13.6%からR2の12.2%に1.4ポイント低下
- 全国は、H17の13.8%からR2の11.9%に1.9ポイント低下
- 15歳未満人口割合は全国平均を上回り、全国順位はH17の38位からR2の16位[過去最高]に上昇

(7) 65歳人口割合の推移

(令和2年国勢調査において、同割合が高い8県)

資料: 国勢調査

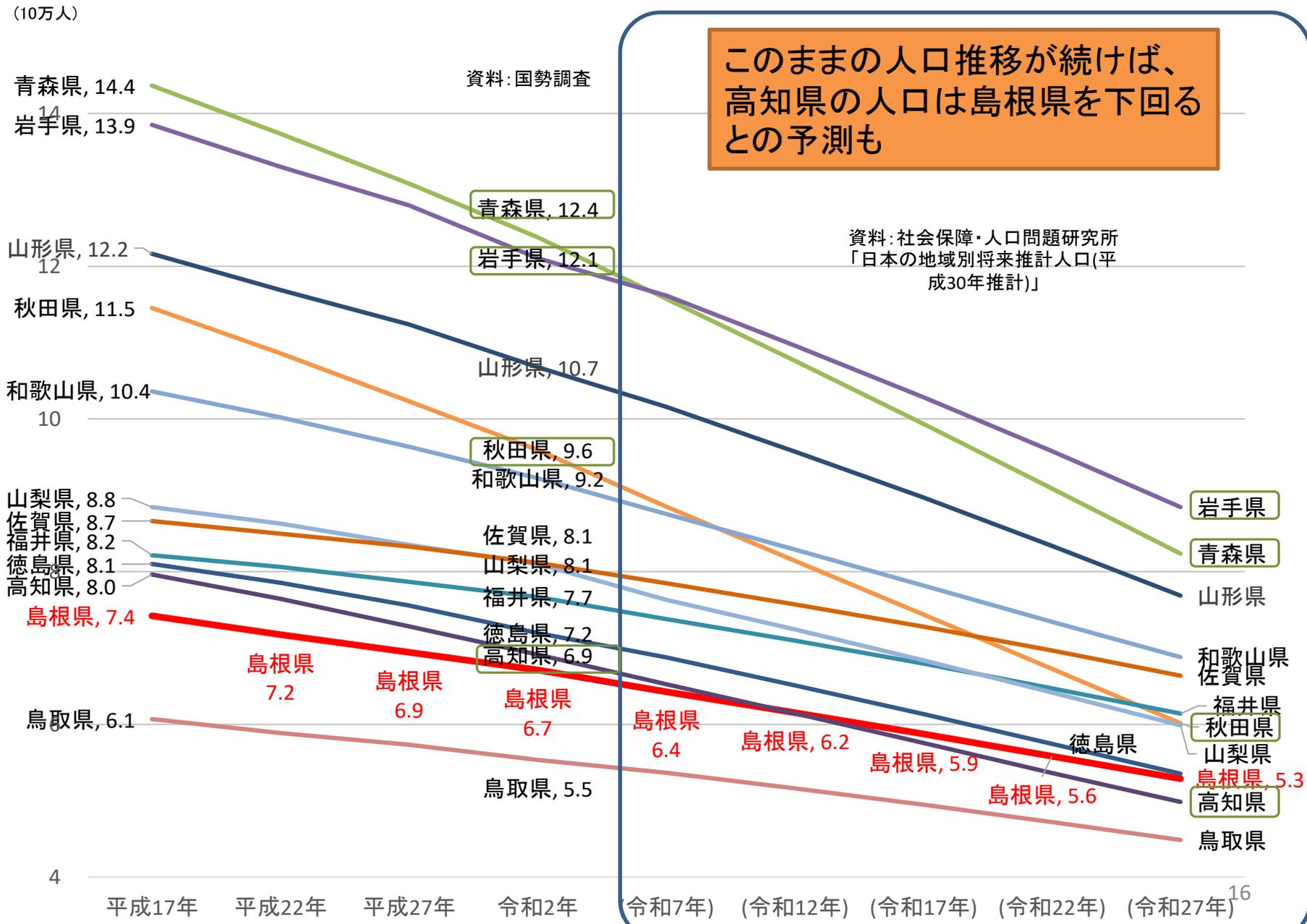


島根県は、もはや少子高齢化の
トップランナーではない

- 島根県は、H17の27.1%からR2の34.2%に7.1ポイント上昇
- 全国は、H17の20.2%からR2の28.6%に8.4ポイント上昇
- 65歳以上人口割合の上昇は全国平均よりも緩やかで、65歳以上人口割合の全国順位はH17の1位からR2の4位に低下

(8) 総人口の推移と将来の予測

(令和2年国勢調査において人口が少ない8県及び人口減少率が高い青森県、岩手県、秋田県、山形県)



このままの人口推移が続けば、高知県の人口は島根県を下回るとの予測も

3 統計はどのように利用されるか

★ 行政(国、島根県、市町村等)による利用

① 行政上の基準(法令に基づくもの)

- ・都道府県議会及び市町村議会の**定数** ← 国勢調査
- ・労働基準法の**休業補償の額、最低賃金**の改訂 ← 毎月勤労統計 等
- ・**地方交付税の算定根拠** ← 国勢調査、農林業センサス、学校基本調査等

② 諸計画・施策の基礎資料(各種統計の総合的利用)

- ・国や県の経済対策
- ・島根創生計画、予算の重点施策の立案
(産業振興、医療福祉、教育など)
- ・市町村の公立学校の再編計画 など

★ 民間による利用

① 企業の経営方針、計画の基礎資料

② 大学等研究機関、学識者による研究のための利用

(例) 国勢調査の役割

- **公正な行政運営の基礎を成す情報基盤**
 - 地方交付税の算定基準、市の設置要件、衆議院小選挙区の画定など
 - 施策策定・推進・評価のための資料
- **国民や企業の活動を支える情報基盤**
 - 民間での活用(商品開発、需要予測など)
 - 学術研究利用
- **公的統計の作成・推計のための情報基盤**
 - 将来人口推計や国民経済計算などの基礎データ
 - 各種統計調査のフレーム

国の重要な統計は法律で指定

- **「基幹統計」…国が行なう特に重要な統計**
 - 国勢調査、経済センサスなど(53統計)
- **基幹統計を作るための調査には報告の義務**
 - 「個人情報保護法」の対象外
 - 「かたり調査」「改ざんたらしめる行為」には罰則
- **法によって守られる秘密の保護**
 - 調査票情報を適正に管理する義務
 - 国・県から任命された調査員は、公務員の扱い
 - 調査終了後も秘密を保護する義務

まとめ 「だから、統計は必要です！」

★ 社会を「見える化」するために欠かせない手段

- ① 「今」をとらえる
→ その「集団」は、今、どんな状況か？
- ② 「過去」と比べる
→ 調査結果を、過去と比べてどう評価するか？
- ③ 「他の地域」と比べる
→ 調査結果を、他と比べてどう評価するか？
- ④ 「将来」を予測する
→ 調査結果をもとに将来を推計し、どう対処するか？

★ 統計調査に回答することは国民の義務

→自分が使うことができる、正確なデータを



- 大切なことは、統計を利用して何かを考え、その考えをもとにして、暮らしをよくしようとして計画を立てることです

(島根県「やさしい統計のはなし」より)

【参考】最近の統計調査に係る問題

調査対象を取り巻く問題

【調査環境の悪化】

- 国民・企業における情報管理意識の高まり
- オートロックマンションの増加など訪問が困難に
- 共働きなど働き方の多様化により昼間不在に



課題

回答が得られにくい
統計調査の環境の改善

調査実施者を取り巻く問題

【調査員確保の問題】

- 調査手法の高度化・多様化（ICTの活用など）
- 統計調査員のなり手の高齢化

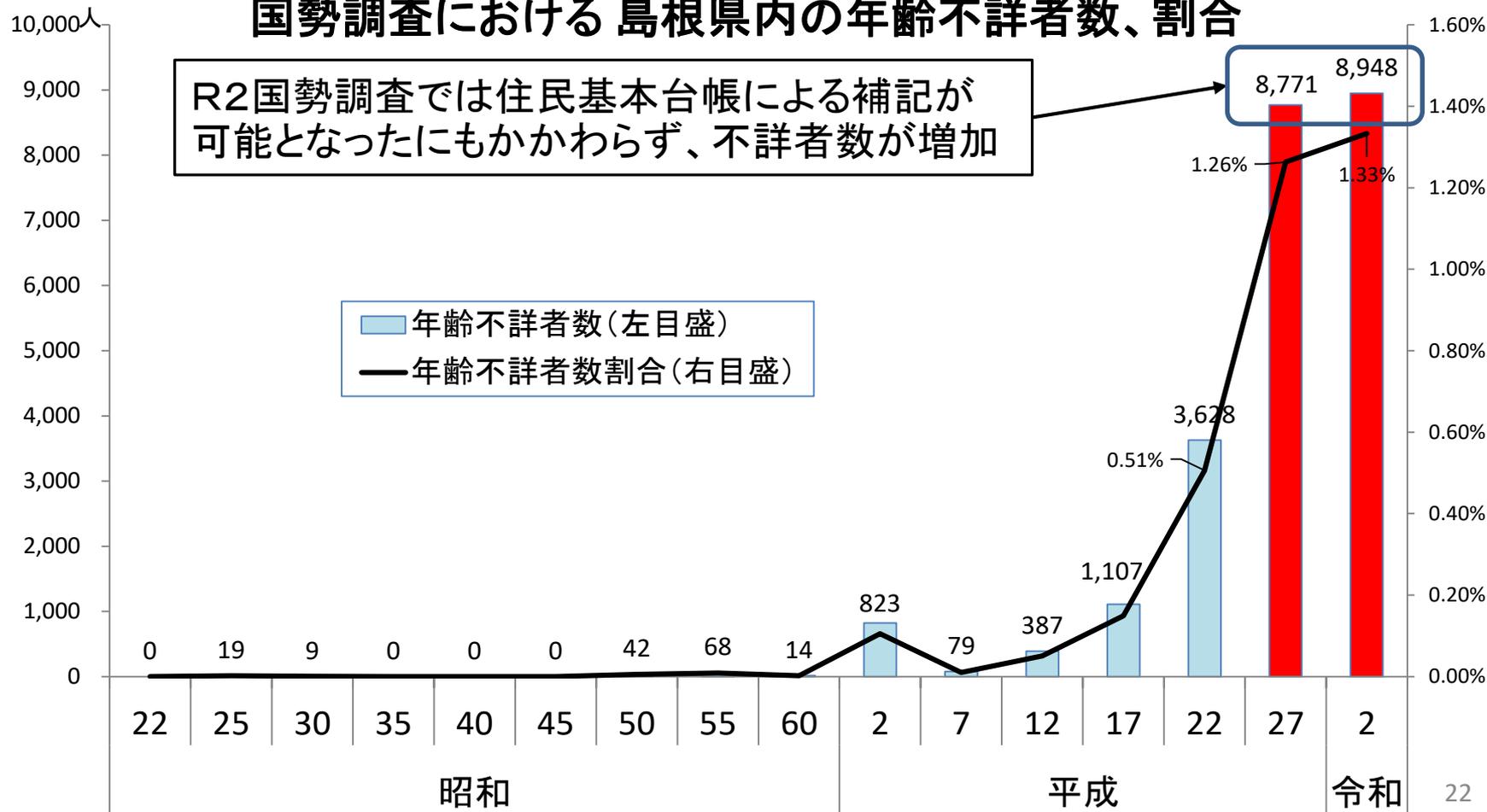


課題

多様な調査手法に順応できる
統計調査員の確保

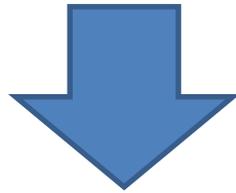
- 近年、部分回答や調査拒否などによる不詳者数が急増
このまま不詳者数が増えると、統計の正確性・信頼性が損なわれる

国勢調査における 島根県内の年齢不詳者数、割合



「不詳」が増加すると？

- 調査の信頼性が揺らぐ
- 時系列的な比較も地域的分析も困難になる
- 国勢調査を元にする標本調査の精度が下がる
- 将来推計が難しくなる



- **調査の継続が難しくなる**
- **施策決定に深刻な影響を与える**

回収率を高め、不詳を減らすには 「調査員調査」が効果的

- 令和7年国勢調査第一次試験調査(R4.6.22)で
 - (A) 調査書類の配布を、直接世帯に面談・説明して、調査を依頼
 - (B) 調査書類の配布を、世帯と面談せず、インターホン越しに調査を依頼するとともに、説明内容を記載した書類を読むよう伝える。
説明書類は調査書類とともに郵便受けなどに入れる
- で、回答世帯の割合に差があるかを比較
- 地域によるばらつきがあるが、概ね(A)の方が回答割合が高かった



**調査の精度を高めるためには、
調査員の確保・育成が不可欠！**

国の統計調査に関わってみませんか



- 非常勤の公務員として活動
 - 国の施策に必要な調査なので、職務を正しく遂行する必要
 - 万一の場合は、一般の公務員と同様、公務災害補償が適用
- 統計法による守秘義務が課される
 - 業務に関して知り得た秘密を漏えいした場合には罰則（統計法41条、60条）

- 学生が統計調査員をやってメリットがあるの？
 - 公務員の職歴を得ることができる
 - 授業では学べない対人マナーを身に付けられる
 - 地域にふれるきっかけになる

(参考) 直近の主な周期調査

	調査名	周期	基準日	備考
令和5年度	住宅・土地統計調査	5年	10月1日	抽出調査

(参考) 現在行われている主な経常調査

名称	所管府省	周期	調査期間	備考
労働力調査	総務省	毎年	毎月	就職・失業の状況 など
小売物価統計調査	総務省	毎年	毎月	物価の状況
家計調査	総務省	毎年	毎月	家計の状況
毎月勤労統計調査	厚生労働省	毎年	毎月※	賃金・労働時間

県統計調査課主管の調査員を経由する調査
 ※ 毎月勤労統計調査の特別調査は7月31日

令和5年住宅・土地統計調査

【目的】住生活の実態を明らかにする

- 住宅数、国民の住居状況、土地保有の状況
- 高齢化社会を支える居住環境
- 耐震性・防火性と言った住宅性の水準の達成度
- 土地の利用状況

【結果の利用】

- 空き家率・持ち家率の把握
- 「住生活基本計画」の策定など

統計調査員に関心ある人は、市町村役場まで連絡を
松江市デジタル戦略課統計係 0852-55-5177
出雲市総務課統計係 0853-21-6301

Ⅱ. 統計の使い方

統計利用の注意点

**「先生が言っているから」といって、
鵜呑みにしない**

- 自分の目で、データを確認しよう
- 自分の頭で、データから考えよう
- 現実と結びつけて考えよう

1. 調査結果を眺めよう

(1) しまね統計情報データベース

しまね統計情報データベース
Statistical Information of Shimane

サイトマップ 個人情報取扱い ヘルプ

島根県

ホーム 総合情報 リンク集 統計ガイド お問い合わせ

今月の統計指標 分野別一覧

新着情報

- 2020/04/09 統計調査の令和2年2月分を掲載しました。
- 2020/03/27 市町村別情報も更新しました。
- 2020/03/27 島根県推計人口(2.3.1項目)を掲載しました。
- 2020/03/27 2019年工業統計調査 島根県別結果(44郡)を掲載しました。
- 2020/03/27 毎月勤労統計調査R2.1月分を掲載しました。

すべての新着情報を見る

お知らせ

- 2020/03/18 3月18日(水)から「しまね統計情報データベース」はリニューアルしました。
- 2020/07/21 各指標の調査にご理解をお願いします。

一覧を見る

分野別一覧

- 人口・世帯
 - 国勢調査
 - 推計人口
 - 世帯数
 - 島根県人口ピロトン
 - 産業別人口・世帯数
- 企業・事務所
 - 経済センサス 基礎調査
 - 経済センサス 産業調査
 - 事業所・企業統計調査
- 農林水産
 - 農業センサス
 - 漁業センサス
- 鉱工業・商工
 - 鉱工業生産指数
 - 工業統計調査
 - 就業統計調査
- 福祉・社会・生活
 - 消費行動調査
 - 県民調査
 - 社会生活基本調査
 - 企業就業意向調査
 - 子育て・子育て調査
- 教育・学校
 - 学校基本調査
 - 学校関係統計調査
- 経済・観光
 - 県民経済調査
 - 県民経済統計調査
 - 市町村別経済調査
 - 県民経済調査
 - 県民就業意向調査
 - 島根県観光動向調査
 - 島根県観光動向調査
 - 観光客調査

各担当グループ問い合わせ先

初めての方へ

刊行物・その他

- 県民経済調査
- 毎月勤労統計
- 統計調査による県民のすがた
- グラフで見る県民のすがた～17分野の調査から現在～
- 統計である経済調査のすがた
- 統計である市町村別のすがた

今月の統計指標

島根県の推計人口	
令和2年3月1日現在	
推計人口	計670,411人
男	323,566人
女	346,845人
前月比	849人▼
自然増減	506人▼
社会増減	343人▼

鉱工業生産指数	
今月指数(1月)	98.4
前月指数	100.0
前月比	1.6%▼
前年同月比	7.4%▼
全国	99.8
中国地方	101.5
<平成27年=100>	

毎月勤労統計 経済動向

50音順検索

(2) 政府統計の総合窓口「e-Stat」



統計で見る日本

e-Statは、日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイトです

お問い合わせ | ヘルプ | English

ログイン

新規登録

統計データを探す 統計データの活用 統計データの高度利用 統計関連情報 リンク集

● 統計データを探す (政府統計の調査結果を探します)

その他の絞り込み

利用ガイド

すべて

政府統計一覧の中から探します

分野

17の統計分野から探します

組織

統計を作成した府省等から探します

キーワード検索:

検索

● 統計データの高度利用

マイクロデータの利用

公的統計のマイクロデータの利用案内

開発者向け

API、LODで統計データを取得

● 統計データを活用する

● 統計関連情報

統計分類・調査項目

統計分類、市区町村コード、調査項目を表示

トレンド

主要指標を、グラフ・時系列で表示
(統計ダッシュボード)

地図

地図上に統計データを表示(統計GIS)

地域

都道府県、市区町村の主要データを表示

基幹統計(53統計)をはじめ、国が作成する
各種統計を探すことができます

(3) 統計を見たり、使ったりするときの注意

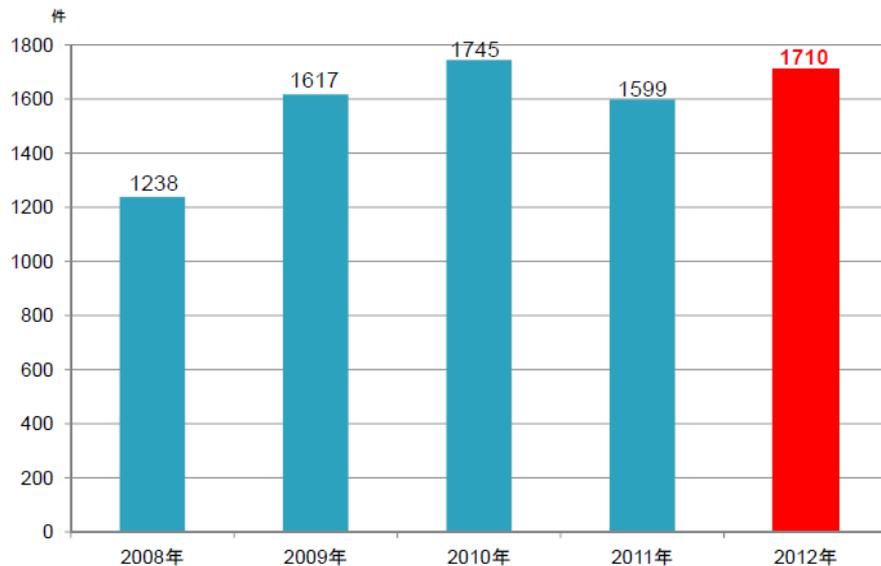
1. 表題をよく読む
2. 頭注・脚注・資料出所などをよく見る
3. 単位を確かめる
4. 比率については、何を何で割ったものかをよく調べる
5. 指数については、基準に十分注意する
6. 平均だけでなく、散らばりもよく調べる
7. 相関関係が強いからといっても、一方が他方の原因であるとすぐに決めない
8. 標本の選ばれ方が無作為であるかないかに注意する
9. 統計グラフを見誤らない

○特に注意してほしいこと

①「実数」と「割合」の両方に注意

鳥衝突件数(2008年-2012年)

国土交通省



- バードストライクが100件ほど増えているが...
(飛行機に鳥が衝突することによる事故)

・離着陸回数全体が大きく増えているため単純比較は無理

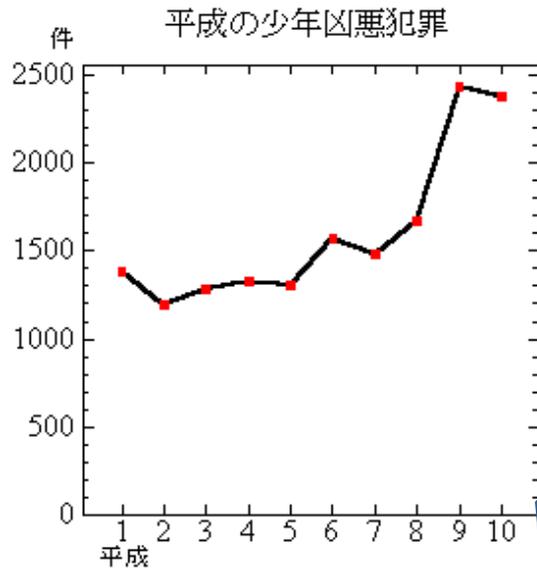
・割合はほぼ同じかやや減少

国交省HPより

http://www.mlit.go.jp/koku/koku_fr15_000015.html

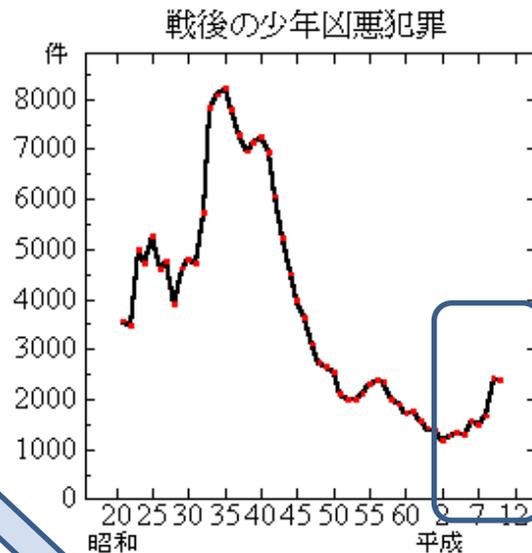
	2011年	2012年	増減
鳥衝突件数	1,599	1,710	111
ニアミス報告件数	344	512	168
離着陸回数	2,080,552	2,244,264	163,712
発生空港不明件数	347	295	▲52
航空機損傷事案	59	48	▲11

② 比べる範囲に注意



少年凶悪犯罪のデータ

- 一見、最近、凶悪犯罪が急増しているように見えるが...



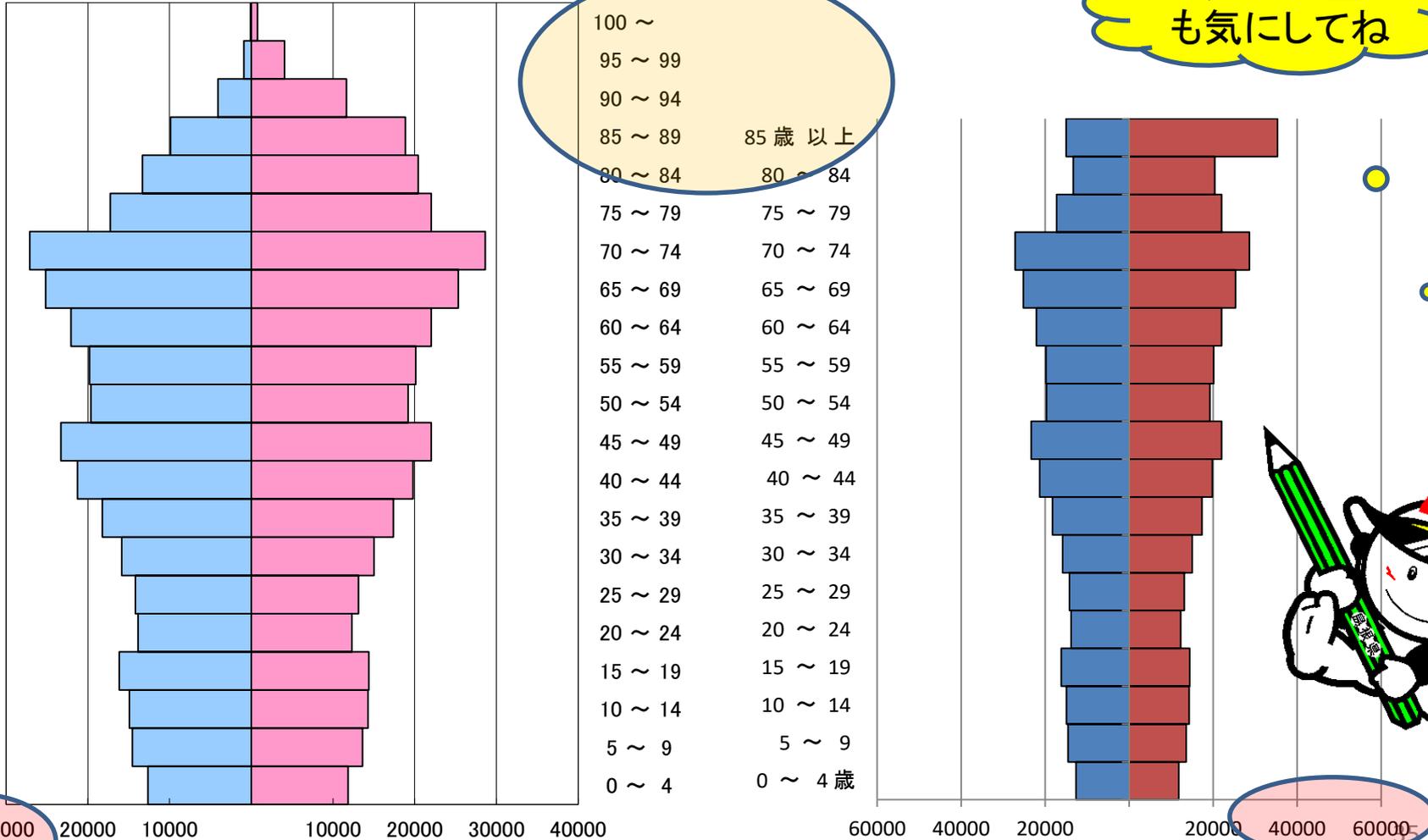
- 実は最近の変化だけを拡大したもの

- 「反社会学講座」<http://pmazzarino.web.fc2.com/> から。詳しくは、ちくま文庫の同書を。

③見せ方に注意

島根県の令和2年の人口ピラミッド
ですが、区分を変えると、全然違う
感じになってしまいます

出典や目盛り
も気にしてね



出典：総務省「国勢調査」

(4)「統計のウソを見破る五つのカギ」

- 誰がそうしているのか(統計の出所に注意)
 - 調査ソースがしっかりしていても、誰がコメントしているか、全面的に支持できるかを確認。
- どういう方法でわかったのか？(調査方法に注意)
 - どんなサンプルに対する調査か。回収率(回答率)はどれくらいあるか。
- 足りないデータはないか？(隠されている資料に注意)
 - 母数はいくつで、何と比較しているか。単なる相関関係を因果関係と思い込んでいないか。
- いっていることが違ってやしないか？
(問題のすり替えに注意)
 - 関係ないものと比較していないか。
- 意味があるかしら？(どこかおかしくないか？)
 - 数字と現実とがずれていないか。数字が正確すぎないか。

2. 調査結果を表現しよう

(1) データを集める前に

まず、言いたいことを決めましょう

言いたいことにあわせた資料集めが効率的
「とりあえずデータを集めれば何か言えるだろう」では、
時間も手間も無駄が多くなる



データが集まれば

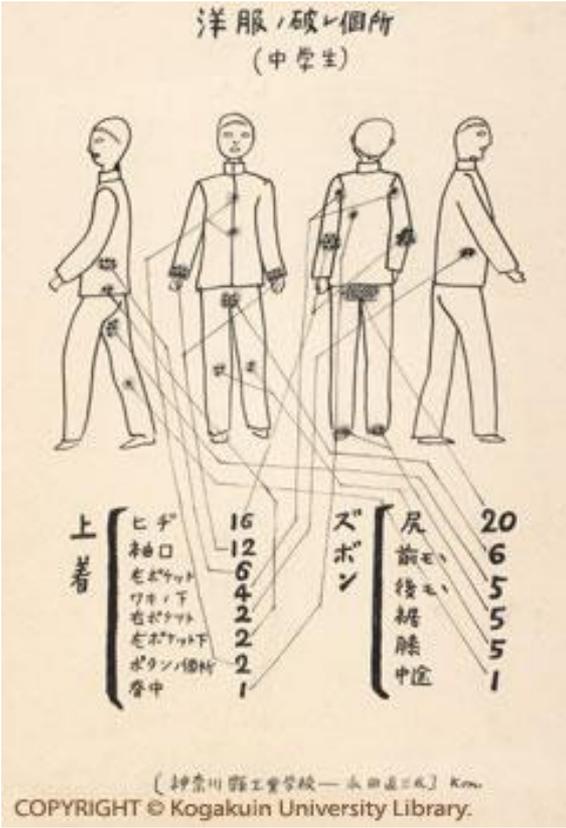
- 過去や他地域などとの比較ができる
- ものごとの特徴や、相互の関係がわかる
- その結果から、言いたいことを、よりわかりやすくすることができる

統計を作るときの注意

1. 「調査のめあて」をはっきりさせる
何のために、どういうことを知りたいか
ということを初めにはっきりさせる
2. 「調査の相手」をはっきりさせる
何を調べるのかをはっきりさせること
はもっと大切なこと。このとき、調査す
る時間や場所もはっきりさせなければ
なりません
3. 「調査の方法」をはっきりさせる
 - ① 調査票を家に持って帰って、家の人に
書いてもらうか、自分で記入するか
 - ② 自分たちで観察・実験・調査し、記録
するか
 - ③ 直接相手に会って聞き取り、調査票に
記入するか、相手に記入してもらって、
後で集めるか
 - ④ すでにできている記録を集めるか

4. 「どういうことを調査するか」をはっ
きりさせる
調査の目当てや調査の方法などと考
え合わせながら決めます
5. 統計材料を集め、それを分類整理
して集計し、統計表やグラフに表す
このとき注意しなければならないこと：
 - ① 調査のめあてに合った分類を考え、
集計表を作る
 - ② どのような手順で集計したら早く正し
くまとめることができるかを、あらかじ
め考えておく
 - ③ 調査の結果を正しくわかってもらうた
めにはどのような統計表やグラフを
作ったらよいか考える

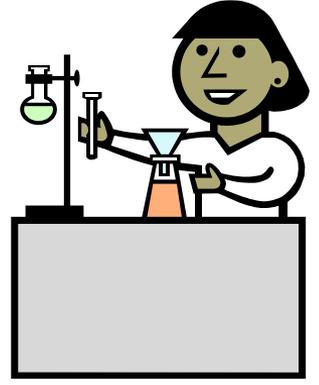
(2) いろいろなデータの集め方



測定
はかって
みよう



実験
試して
みよう



調査・アンケート
聞いてみよう

観察 かぞえてみよう

(今和次郎(2011)「今和次郎 採集講義」(青幻舎)より)

その他

新聞、インターネット、図書館など

(3) 統計情報のまとめ方

統計表と統計グラフの長所と短所

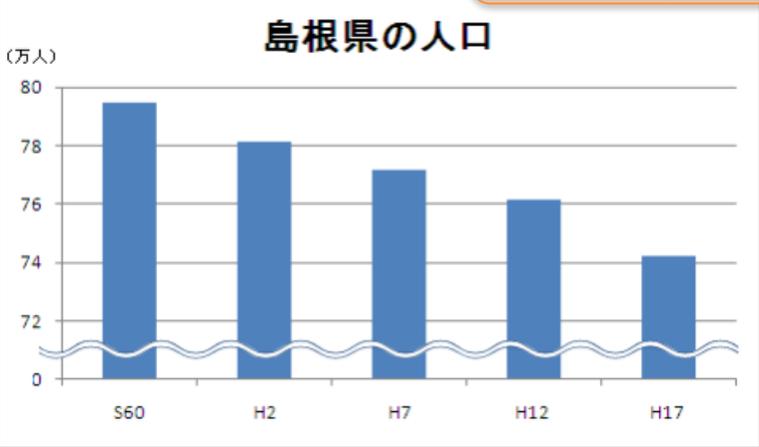
	長 所	短 所
統計表	<ul style="list-style-type: none">○ 数字を詳しく表せる○ 狭いスペースに多くのことが書ける○ いろいろな内容・関係がわかる	<ul style="list-style-type: none">○ 全体の特徴や傾向をつかみにくい○ すぐには理解しにくい
統計グラフ	<ul style="list-style-type: none">○ ひと目で全体の様子がわかる○ だれにでもわかりやすく親しみやすい	<ul style="list-style-type: none">○ おおよその数しか表せない○ 情報の全部を一つの図に表せない○ 作成に手間や時間がかかる

(4) グラフのいろいろ

わかりやすくなるよう工夫を

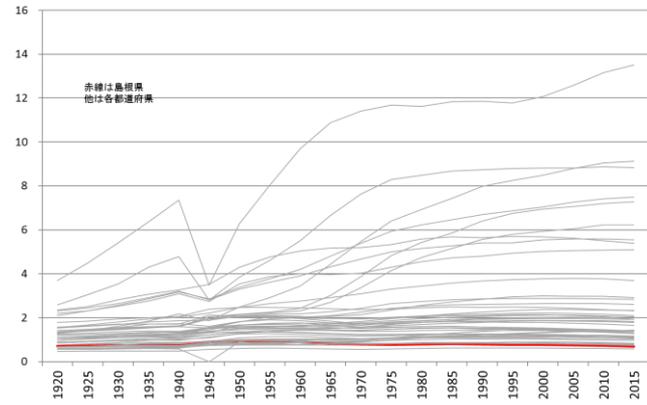
① 棒グラフ

数値を単純に比較
時間的変化を示す



② 折れ線グラフ

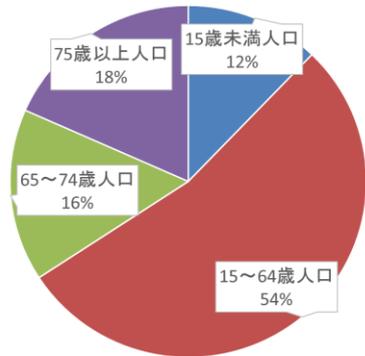
時間的変化を示す



③ 円グラフ

集団の質的構造を表す

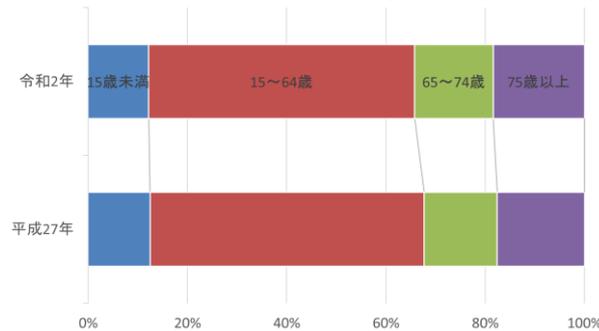
令和2年国勢調査島根県年齢別人口



■ 15歳未満人口 ■ 15～64歳人口 ■ 65～74歳人口 ■ 75歳以上人口

④ 帯グラフ

集団の質的構造を表す
並べれば比較も可能



島根県の4区分人口～国勢調査より

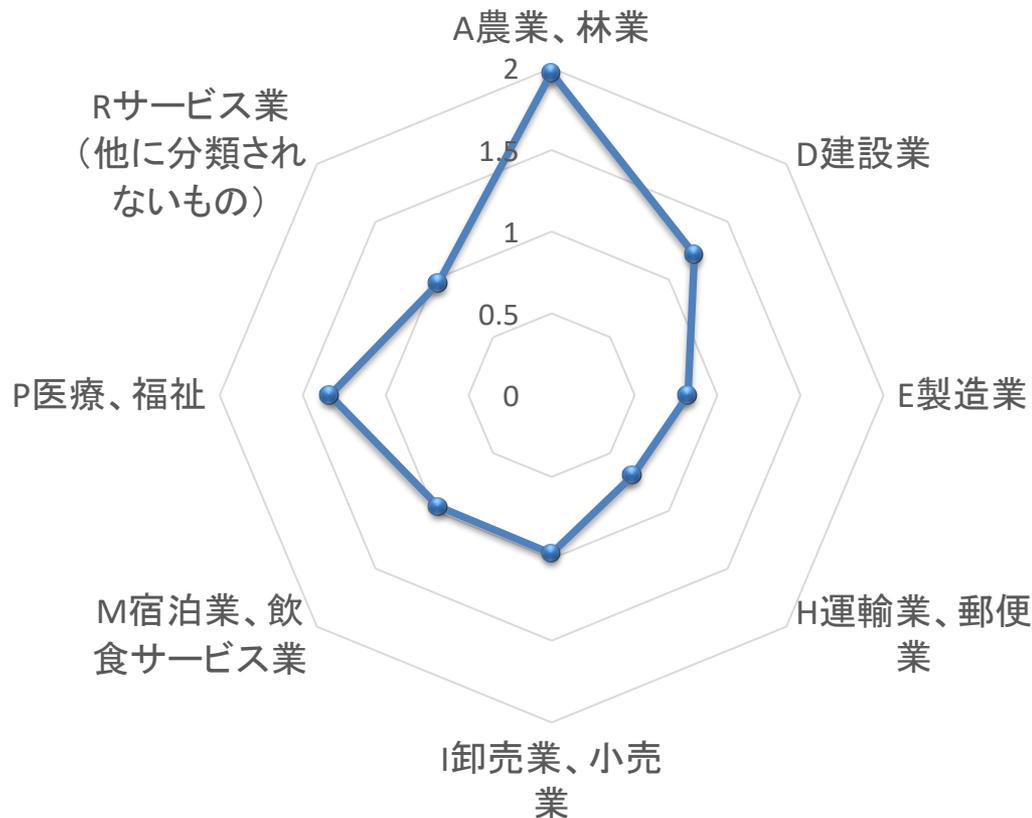
目的別にみた主なグラフの表現

		比較	内訳	推移	相関	分布
①	棒グラフ	◎	○	○	△	△
②	折れ線グラフ	△		◎		
③	円グラフ	○	◎			
④	帯グラフ	○	◎	○		
⑤	レーダーチャート	◎	○	○		
⑥	統計地図			○		○
⑦	ヒストグラム					○
⑧	箱ひげ図	○				○
⑨	散布図(点グラフ)			○	◎	◎

⑤ レーダーチャート

複数の指標をまとめてみる。

主な産業における従業者数の 特化係数



- 多数の項目の数字を線で結んだグラフ
 - 特性の比較ができる
- 「特化係数」は、各産業が全国と比較してどの程度の水準にあるのかを示す指標
 - $\text{県構成比} \div \text{国構成比}$
 - 1を超える産業は、その産業の構成比が全国よりも高い水準にあることを示す

⑥ 統計地図

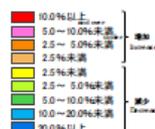
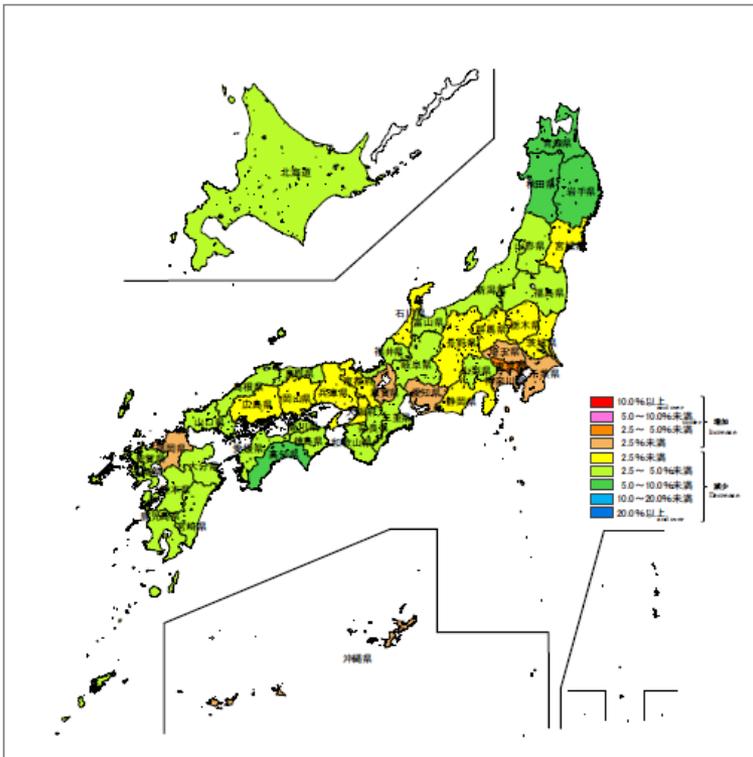
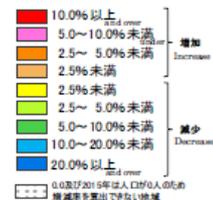
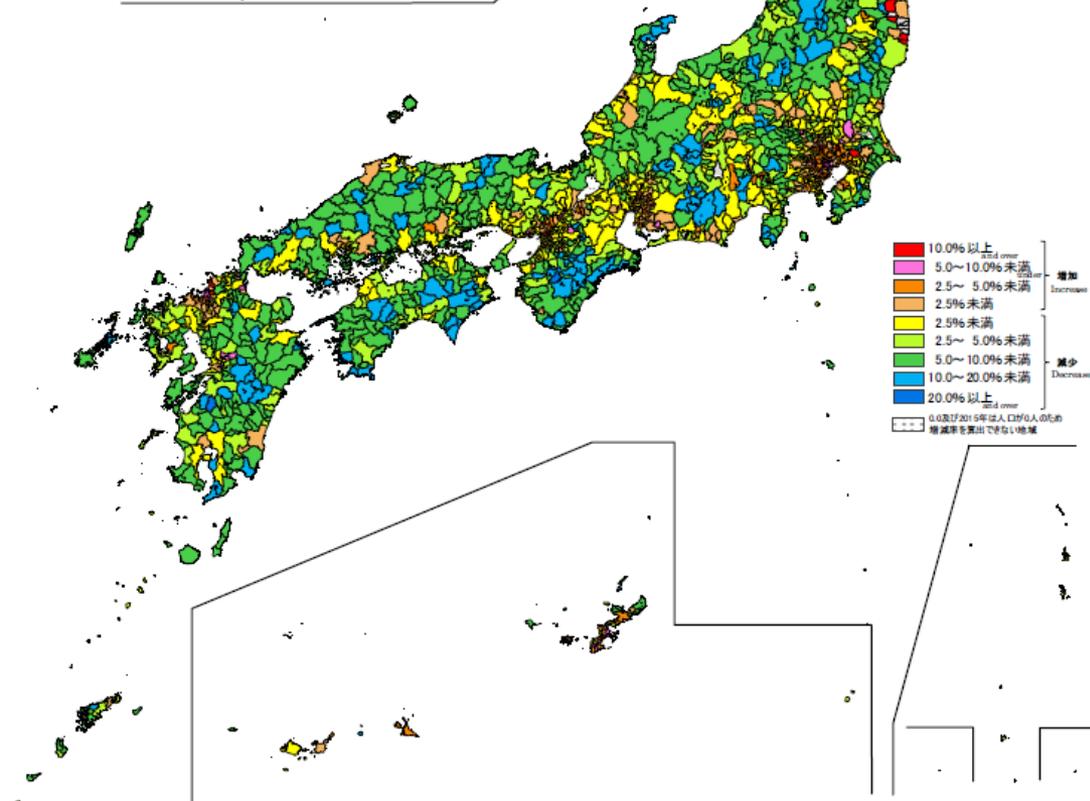
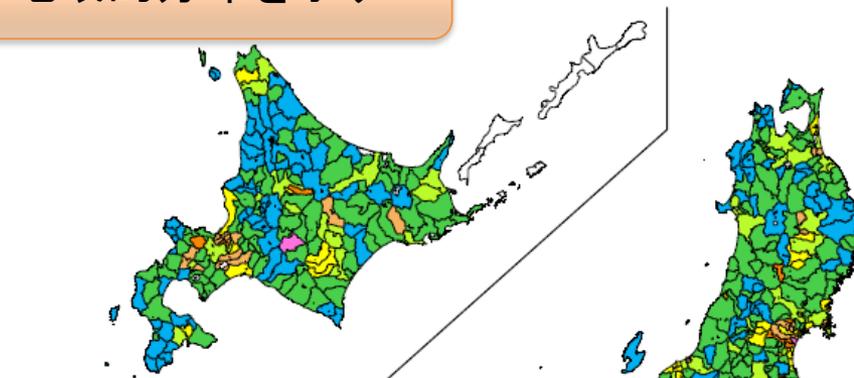
地域的分布を示す

令和2年国勢調査
2020 POPULATION CENSUS OF JAPAN

都道府県・市区町村別人口増減率
(平成27年～令和2年)

人口増減率: $\frac{\text{令和2年人口} - \text{平成27年人口}}{\text{平成27年人口}} \times 100$

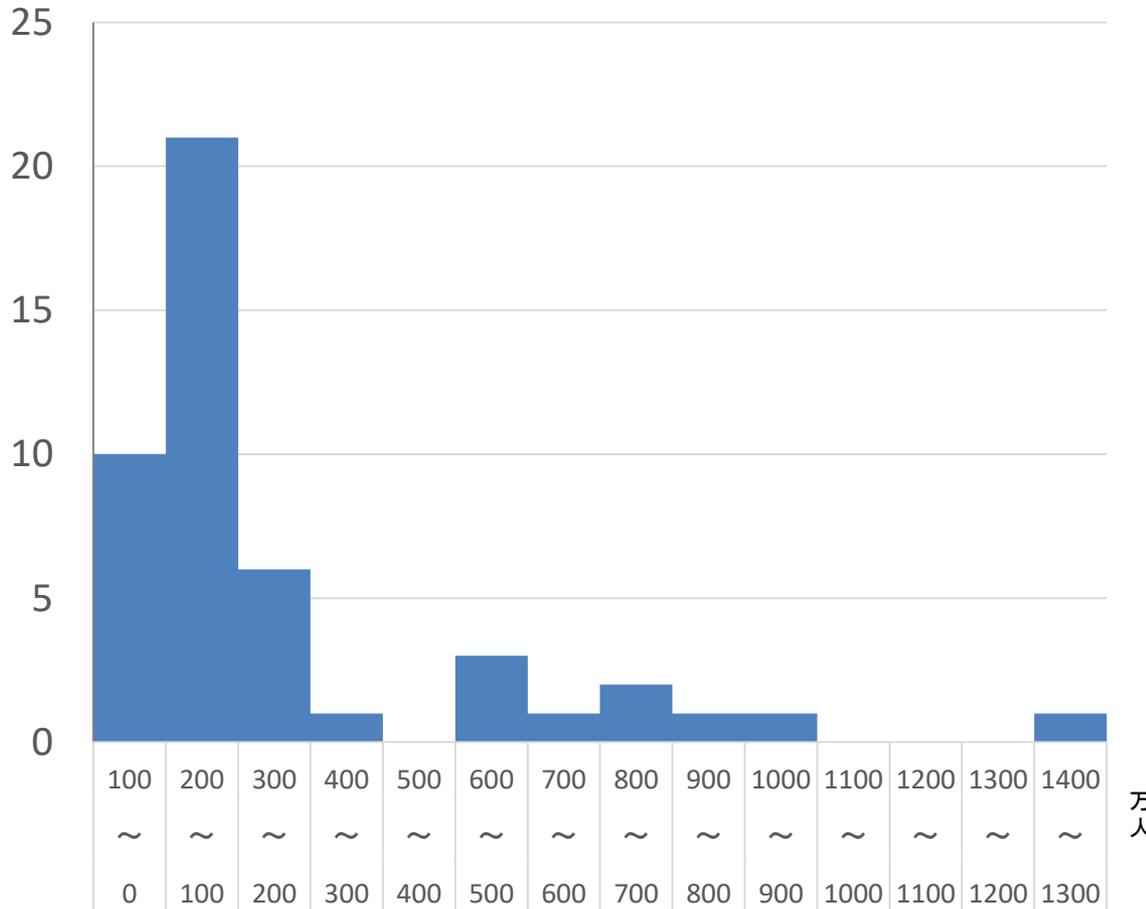
Rate of Population Change From 2015 to 2020
by Prefectures and by Municipalities



⑦ ヒストグラム

データの散らばり方を示す

令和2年国勢調査における都道府県別人口総数のヒストグラム



- ・棒グラフの一種だが、縦軸(Y軸)は度数の散らばりを示す
- ・横軸(X軸)は量的データで、連続性があるため、棒を隣接させる

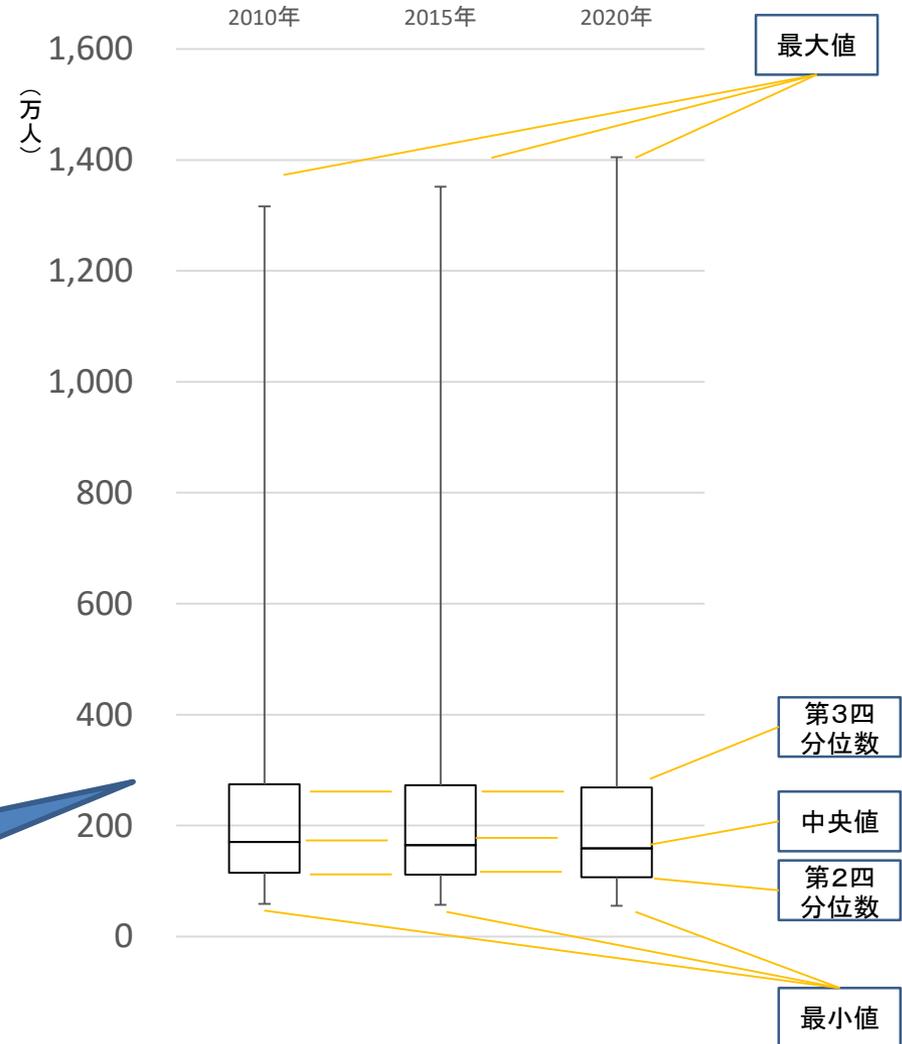
⑧ 箱ひげ図

- データのちらばりを示す
 - 集団間の比較もできる
- 用いるのは、最小値、第1四分位数、中央値、第3四分位数、最大値
 - 四分位数とは「全てのデータを小さい順に並べて四つに等しく分けたときの三つの区切りの値」

都道府県人口の格差が広がっていることがわかる

データのちらばりを示す

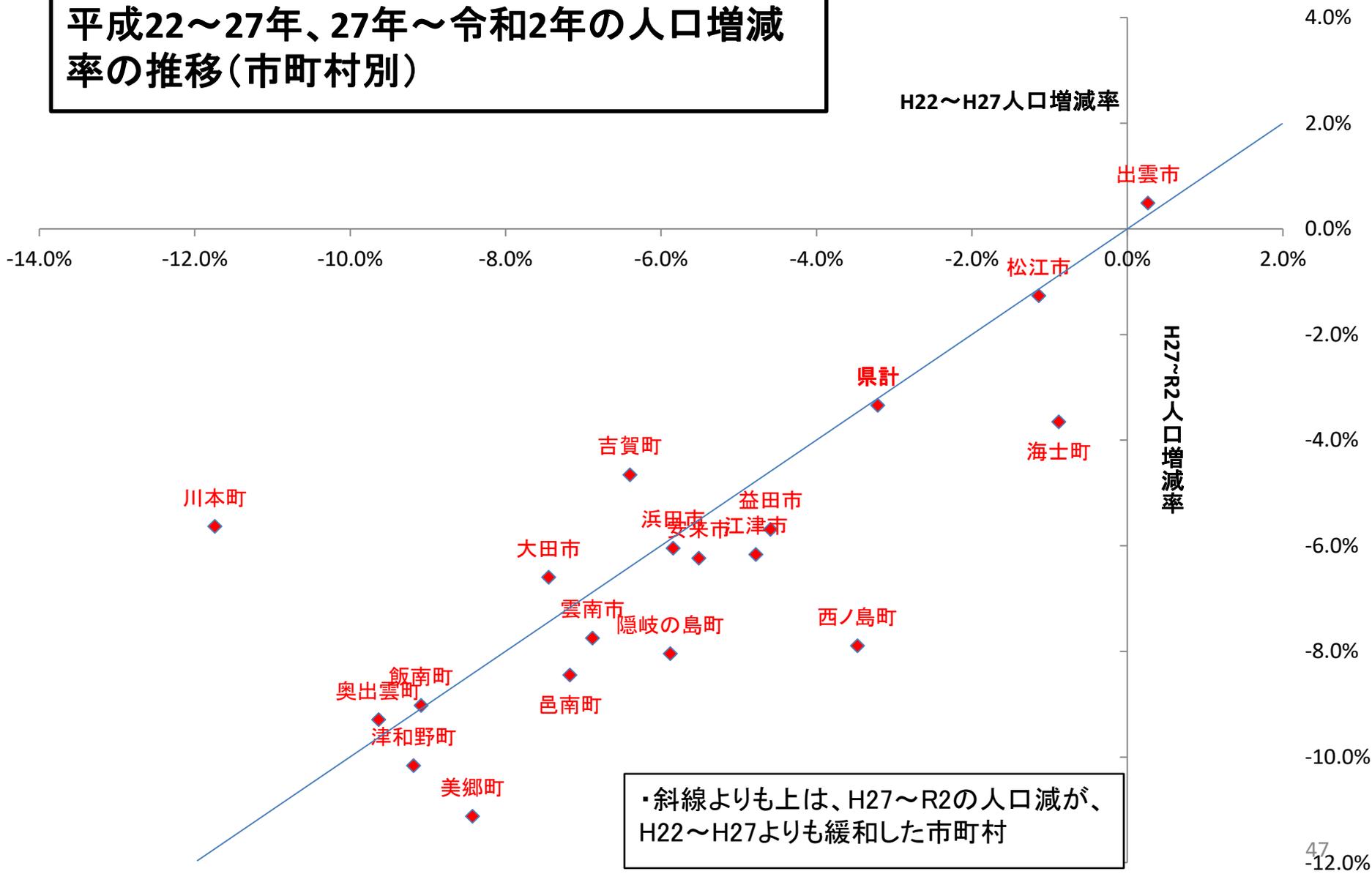
2010~2020年国勢調査における都道府県別人口総数の箱ひげ図



⑨ 点グラフ（散布図）

二つの量の間の関係を示す

平成22～27年、27年～令和2年の人口増減率の推移（市町村別）



(5) うまく伝えるために

わかりやすいグラフにしよう

- 書き込みしすぎたり、意味のない飾り(立体化など)はつけない
- 基点は0にしよう(特に棒グラフ)
- 意味のある比較をしよう
- 目的に合ったグラフを選ぼう

問題解決のステップが参考になる!

step I : 現象

現象を正しくとらえる

step II : 因果・メカニズム

その現象の因果・メカニズムを究明し原因を特定する

step III : 対策

特定した原因への対策を講ずる

大切なのは役に立つこと

数学的分析だけでは問題は解決できない

- **問題を見つける力(問題発見力)**
 - 現場にも足を運んで、いろいろな経験を
- **問題を解く力(分析力)**
 - 数学的な分析
- **結果を使わせる力(実行・表現力)**
 - プレゼンや具体化の力
 - KKD(勘・経験・度胸)も大事

分析者9ヶ条

1. ビジネスの現場に出よう
2. 整理整頓を心がけよう
3. なぜ? なぜ? なぜ?
4. データをビジュアル化しよう
5. 他人のデータを疑おう
6. simple is better
7. ざっくり計算
8. 文章を書こう
9. うまくいかなければ、目的に立ち返ろう

【参考】統計データ分析にかかるとコンペ

(1) 令和6年度 島根県統計グラフコンクール

作品募集！

島根県では、統計知識の普及と統計の表現技術の研さんのため、県内の小学生、中学生、高校生、大学生及び一般から統計グラフを募集します。

疑問に感じていることや不思議に思っていることはありませんか？それを自分なりに調べてグラフにまとめてみよう！！意外な発見があるかも。たくさんのご応募お待ちしております。

応募資格：島根県に在住、在学、在勤する人

第1部～第4部 小中学校の児童・生徒

第5部：高等学校以上の生徒・学生・一般

パソコン統計グラフの部：小学校の児童以上

課題：自由

規格：B2判（仕上げ寸法72.8cm×51.5cm）

募集期間：未定

入賞区分：特選・入選・佳作・努力賞・学校奨励賞

入賞発表：10月中旬

テーマはなんでもOK！
あなたの作品をお待ち
しています！！



昨年度の募集要領・審査結果はこちら（今年度の募集要領は6月下旬掲載予定）

<https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/pref/toukei/kyoukai/graphconcours/>

県優秀作品は全国コンクールに送られます

<https://www.sinfonica.or.jp/tokei/graph/index.html>

統計グラフコンクールの審査基準

(第3部～第5部、パソコングラフの部)

ア 共通基準

①誤りはないか

目盛り、単位の取り方、文字・数字、脱字、記入漏れ

②書き落としはないか

資料の出所、観察・調査の方法

③的確か

見出し（主題）の表現、配色

イ 部別基準(該当部分)

①統計データを正しく理解してグラフ化することによって、データの持つ事象が理解されやすくなるように工夫されているか

②訴えたい主題が的確にグラフに表れているか。また、主題は斬新で興味を喚起するものであるか

③パソコン統計グラフの部では、パソコンの機能を十分に活用したものであるか

(2) 統計データ分析コンペティション (SSDSE)

- 総務省統計局、(独法) 統計センター、統計数理研究所、(一財) 日本統計協会
の共催
- 優秀作品には、総務大臣賞をはじめ各賞が授与
 - 受賞論文は統計専門誌に掲載
- ウェブサイトに過去の優秀作品あり

<https://www.nstac.go.jp/statcompe/>



総務省統計局 独立行政法人 統計センター 統計数理研究所 日本統計協会

統計データ分析 コンペティション 2023

高校生、大学生等の皆さんの統計分析における
アイデアと技術を競います

論文募集

エントリー期間
令和5年5月10日(水)
~8月9日(水)

論文締切
[大学生・一般の部]
令和5年8月31日(木)
[高校生の部]
令和5年9月8日(金)

最優秀作品には
総務大臣賞と副賞
が贈られます
このほか、受賞論文が
専門誌等に掲載されます

第6回統計データ分析コンペティション
詳細は、下記ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.nstac.go.jp/use/literacy/statcompe/>



共催 総務省統計局・独立行政法人 統計センター
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所・一般財団法人 日本統計協会

後援 文部科学省・国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)
全国高等学校長協会・一般社団法人 日本統計学会・全国統計教育研究協議会

(3) スポーツデータ解析コンペティション

- 日本統計学会スポーツ統計分科会の主催、データスタジアム株式会社などが協賛
- 実際のスポーツデータを使って分析
 - <https://sports.ywebsys.net/>
(前回2022年は、野球、サッカー、柔道、eスポーツの4部門及びインフォグラフィック部門)
 - <https://estat.sci.kagoshima-u.ac.jp/SESJSS/sports2022.htm>
(中等教育の部の優秀作品。参考になる)

(4) 地方創生★政策アイデアコンテスト

- 主催：内閣府地方創生推進室
共催：経済産業省
- 地域経済分析システムRESASを活用した地域課題の分析を踏まえた、地域を元気にするような政策アイデアを募集するコンテスト
- 優秀作品には各種表彰あり
- 過去の優秀作品も掲載

<https://contest.resas-portal.go.jp/2022/>

データの力で地域を元気に

あなたの分析お待ちしています

地方創生★政策アイデア コンテスト2022

地域経済分析システム (RESAS)、V-RESAS等のデータを使って、
地域の現状や課題を分析し、地域の未来をより良くする政策アイデアをご提案ください!

募集期間 2022. 8月2日(火) ▶ 9月30日(金)

最終審査会 2022. 12月10日(土)

表彰区分

- 地方創生担当大臣賞
- 高校生・中学生以下の部、大学生以上一般の部、官民連携の部
- 優秀賞
- 経済産業局長賞、沖縄総合事務局局長賞
- 協賛企業賞

最終審査会

日時: 2022年12月10日(土) 10:00~18:00(予定)
会場: 中央合同庁舎8号館・講堂(内閣府)

※会場参加またはオンライン参加をお選びいただけます。
※インターネットでのライブ配信を行います。
※イベントから視聴申し込みが可能です。
※詳細は変更される場合がございます。

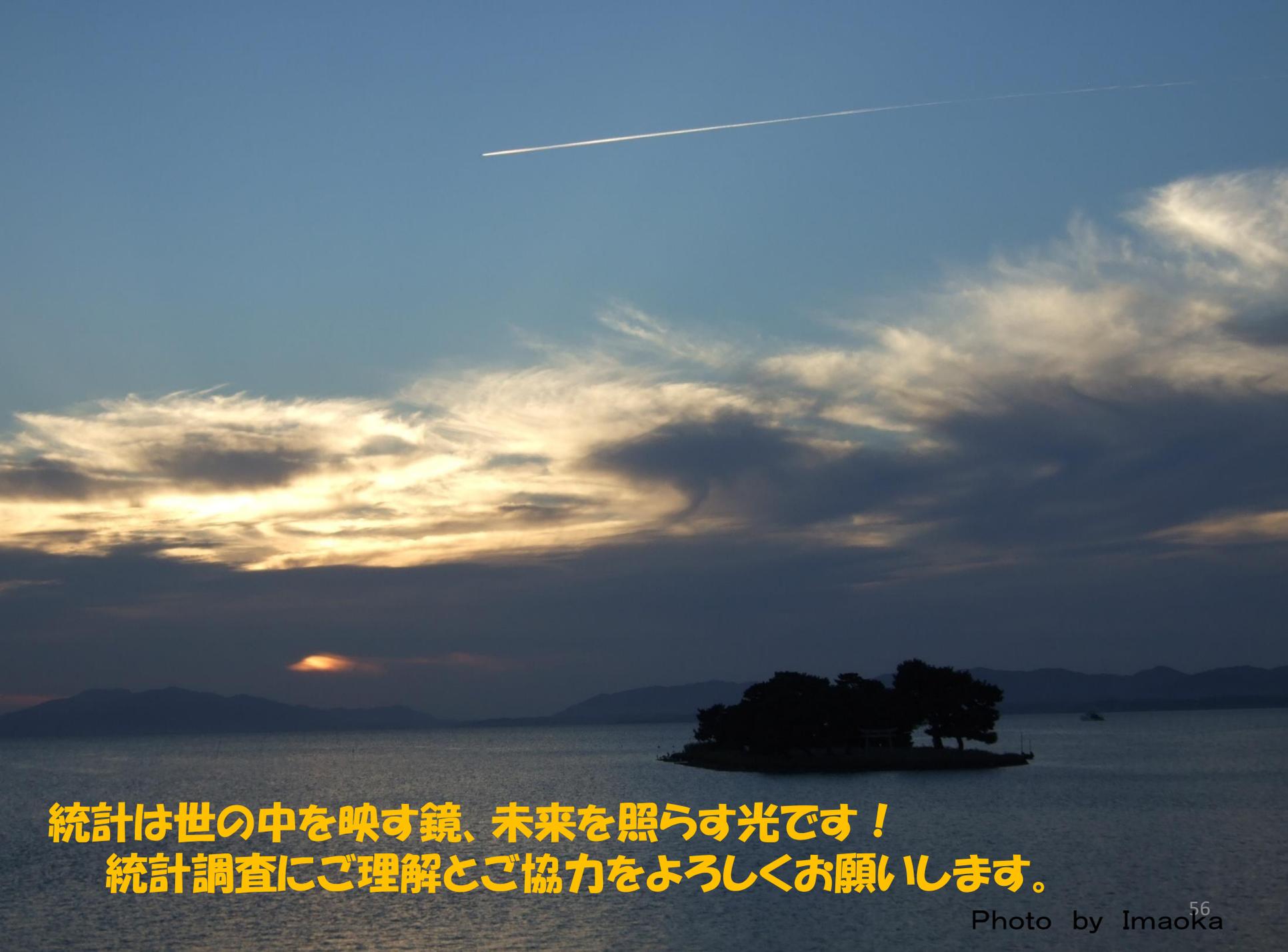
応募の詳細、受付はこちらから

地方創生政策アイデアコンテスト 検索

<https://contest.resas-portal.go.jp/2022/>

お問合せ先 地方創生政策アイデアコンテスト2022事務局 受付事業者 株式会社JTB
電話番号 03-6737-9263(直通) 9:30-17:30(土日祝を除く)
メールアドレス resas2022@jtb.com

RESAS V-RESAS で検索!!
主催: 内閣府地方創生推進室 共催: 経済産業省



**統計は世の中を映す鏡、未来を照らす光です！
統計調査にご理解とご協力をよろしく申し上げます。**